

36. 長期透析患者に合併した全身性アミロイドーシスを基礎とする虚血性腸炎症候の検討及び高気圧酸素療法の有用性

勢納八郎*¹⁾ 渡辺緑子*¹⁾ 小林さゆり*²⁾
 武田 明*²⁾ 藤 良英*²⁾ 谷川行雄*²⁾
 川原勝彦*³⁾ 岩田 宏*³⁾ 田那村収*³⁾
 内藤明広*³⁾ 川原弘久*¹⁾ 松尾清一*⁴⁾

*¹⁾ 偕行会名古屋共立病院内科
 *²⁾ 同 医用技術課
 *³⁾ 同 外科
 *⁴⁾ 名古屋大学医学部第三内科

長期透析患者では全身性アミロイドーシスに伴う多くの合併症が発生するが、なかでも虚血性腸炎は非透析患者と違い、病巣が広範で重篤化しやすく、しばしば致死性である。昭和63年から平成8年の間、全身性のアミロイドーシスによると考えられる、「虚血性腸炎」を合併した透析患者17例につき検討した。

17例中15例でイレウスと診断されていた。

11例は重篤で比較的早期に死亡、うち8例で外科手術が行われていた。このうち高気圧酸素治療(HBO)を併用したのは1例あったが、術前にHBOにより、一度は症状の軽快を見た。再増悪により手術となったが、結果的に発症後46日間延命した。手術が行われなかった者のうち1例は最も重篤で、2日以内に死亡。1例はHBO施行し21日間延命、1例は通常の治療のみで74日間延命した。

また、6例が生きているが、生存者では全例手術が行われず、4例でHBOが行われていた。2例は保存的治療のみで、軽快している。

全身性アミロイドーシスに伴う虚血性腸炎は重症化し易く予後不良である。比較的軽症のものであれば救命しうるが、手術による治療効果には疑問が残る。HBOは症状の改善に有効である。

透析中、透析後の所謂“Abdominal Angina”を訴える患者は4～5%と言われている。虚血性腸炎は、より軽症うちに治療すべきで、日常の排便コントロールと、早期のHBOが望ましい。

37. 骨髄炎に対する高気圧酸素治療

川 嵩真人 田村裕昭 野呂純敬
 高尾勝浩 吉田公博
 (医療法人玄真堂川嵩整形外科病院)

【目的】病巣局所の血流の改善と炎症の鎮静を目的として、骨髄炎に対してHBOを行った。

【方法】全症例に対してHBOをまず1クール(20～30回)行い、炎症症状の続くものには局所持続洗浄を行い、術後さらに1クールを行った。

【症例】1981年6月～1995年12月の期間、当院にてHBOを行った骨髄炎の症例は、男性185例、女性78例、計263例であった。

原因別では、血行性102例、外傷性161例であった。

年齢は1歳～86歳、平均50.3歳であった。

部位別では、脛骨101例、大腿骨73例、足根骨24例、下顎骨16例、骨盤、足趾骨各14例、その他の順であった。

検出菌は、黄色ブドウ球菌43例、緑膿菌33例、表皮ブドウ球菌12例、MRSA10例、連鎖球菌5例、霊菌、バクテロイデス、結核菌各3例、クレブシエラ属2例、エンテロバクター1例、陰性75例、不明80例であった。

【結果】治療成績は、155例のHBO群と108例の灌流+HBO群に分けて検討した。

HBO群では、良140例(90.3%)、可4例(2.6%)、不可11例(7.1%)であった。灌流+HBO群では、良105例(97.2%)、可1例(0.9%)、不可2例(1.9%)であった。

総合成績は、良245例(93.2%)、可5例(1.9%)、不可13例(4.9%)とほぼ満足する結果であった。